

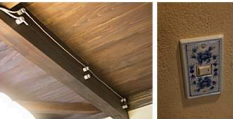


古民家スタイルの家にぴったりの新装は、ハウズランド社のオリジナル。枕木や石で仕上げるアプローチの工事後が楽しみです！



部分的な調整がしやすい設計のリビング照明。時間やシーンにあわせて多彩な演出ができるから、毎日がさらに楽しくなる

浮造り仕上げの九州産杉を使用  
細かなところまで匠の技が光る



古民家スタイルの家にぴったりのやさしいガイシ配線。小物へのこだわりにも家主のセンスを感じる

キッチンすぐ横のパントリーは、ストックにも便利。動きやすいのが最大のメリット！



タイルのデザインが短調になりがちな空間のアクセントになっている



愛犬のリンドウちゃんの様子もキッチンから見える

「ハウズランド社」がつくった  
木造中核住宅 / Sさんの住まい

## 西洋漆喰と無垢の木が美しい！ 匠の技が細部にまで行き渡る家

築45年以上のわが家を建て替えようとして、Sさん家族が選んだのは、古民家スタイル。洗練されているのに、ほっこり温かい——そんな「ハウズランド社」の「風のくら」で、満足度120%の住まいが完成！

里山の風景に美しく溶け込む  
重厚感溢れる佇まい

太宰府の住宅地を奥へと進み、緩やかな坂を上っていくと、和の趣きのある立派な門構えの家が現れる。里山のふもとに静かに佇むSさんの住まいは、周辺を豊かな緑に包まれ、りと囲まれ、まるで、ずっと前からそこに建っていたかのように、すつかりと風景に溶け込んでいた。建て替える前に住んでいた築45年の家は、「夏は涼しく快適だけど、冬の厳しさといったら——」とS



さんと次男の息子さん、もともと以前から、建て替える計画をしていたというが、その当時、Sさんが希望していたのは「コンクリート打ちっばなしのモダンな家。あれは空調がすごく大変だし、と主人には言われていましたね私、も若かったのでしょね(笑)。年を重ねるにつれて、古

民家的な家が好きになって、旅先の旅館やホテルの飾りを参考にしようになりました」とお母様。3年前に病気で亡くなったご主人は、建物を知り尽くした一級建築士のご夫婦で家づくりについて、いろいろと会話を弾ませていた。建て替えるよう決めた時、古民家風の家にしたと話すとSさんの希望に、同居中の息子さんも大賛成。その日のうちに、Sさんが以前から気になっていた「ハウズランド社」の「風のくら」に見学。展示場を見て、「やっぱりいい！」と親子の意見が一致。1階をSさん、2階を息子さんが生活するスペースとして、憧れの古民家スタイルの家づくりがスタートした。